

「気持ち切り替えて」 初優勝

東海大九州勢9大会連続V

《第44回九州学生選手権競技》

～くまもと中央カントリークラブ

通算4アンダー 140

東海大九州3年・藤井 太己



今大会も東海大九州の選手が頂点に立った。2020年のコロナ禍での開催中止を挟んで9大会連続優勝。同大のエース格である藤井が通算4アンダー140で勝った。「九アマは大きな大会で優勝したかった。今回は気持ちを切り替えてやりました。本当は10アンダーくらいいきたかったんですが、3年連続の4アンダー。成長してないの

かな」と笑った。前週の九州アマチュア選手権は優勝争いをしながら、最終的にはウイナーに2打及ばずの3位タイ。悔いの残る中での九州学生選手権だったが、引きずることもなかった。

1日36ホール of 試合。断続的に雨が降り、風も強かった。午前10時には8mを記録。そんな中でも藤井は第1ラウンドを3バーディー、3ボギーのパープレー72の首位タイで終わると、第2ラウンドは6バーディー、2ボギーの68をマークして2位に3打差をつけて逃げ切った。「雨風はあまり気にならないんです。小さい頃から風の強い河川敷で練習していましたから」。6歳から父・孝さんの影響でゴルフを始めた藤井は佐賀県白石町にある「むつごろうCC」で腕を磨いた。このコースは河川敷で風は当然のように強い。そのお陰で苦にならないという。

ぽっちゃり型の体付きも変わった。最大92kgあった体重が今では81kg。食事やウエイトトレなどで減量に成功した。「歩きの試合も結構あるし。36ホールやっても、きつくない」と減量も優勝に貢献したのだった。

今回の優勝で日本学生選手権の出場権を獲得。その前には日本アマチュア選手権もあり、全国大会が続く。「日本アマで優勝したいですね。去年は2日目にトップになり、ものすごく緊張した」。最終的には20位タイに終わったが、確かな経験となった。日本学生は3年連続出場。両大会で存在感を示す。

初の九州タイトル

マッチングスコアカード方式 で東海大九州勢に勝利

《第24回九州女子学生選手権競技》

～くまもと中央カントリークラブ

通算1アンダー 143

長崎国際大3年・河野 るい



大学3年目にして初のタイトル。「1位がタイの場合はマッチングスコアカード方式で決定」との大会規定により優勝をつかんだ。第1ラウンドは東海大九州1年の松本愛未と73で並んで首位。第2ラウンドも松本と同スコアの70。トータル143で全く一緒だったが、第2ラウンドのインが松本の36に対し、河野は35だった。この試合では東海大九州4年の内藤舞美の大会史上初の3連覇がかかっていたが、阻止した。

「嬉しいです。優勝は高3の長崎県ジュニア以来。ドライバーはまとまらなかったけど、アイアンがまとまった。パーオンが良かった」と勝因を自己分析した。第1ラウンドはインスタート。前半は「いい所についたけど、バーディーパットが入らずに」スコアカード通りの36。後半のアウトでは37。第2ラウンドは35・35の70。パーオンは第1ラウンドが15ホール、第2ラウンドが13ホールでパーオン率は・778をマークした。パーオン率の高さは安定したプレーを証明する。

本音は昨年か一昨年に優勝したかった。この大会は2024、25年と河野のホームコースの大村湾カントリー倶楽部で開催。この2年間の彼女の成績は8位タイ、9位タイと優勝争いにも絡めない。「1年生と2年生の時がダメだったので」と2年分の思いを晴らしたのである。

ゴルフは6歳で始めた。九州女子学生でも活躍した4歳年上の姉・あずみの後ろ姿を見ながらクラブを振る。長崎県の波佐見小ー波佐見中ー柳ヶ浦高（大分）とジュニアで活動。姉は長崎国際大を卒業後、兵庫のゴルフ関係のメーカーに勤務。河野も「プロは目指していない。卒業後はゴルフに係る仕事をしたい」と将来を設計する。競技ゴルフは大学で終わる可能性が高い。それだけに初出場となる日本女子学生に向けて「出たいなあと思っていたので良かった。初めての挑戦だし、予選を通過して何とか決勝に残りたい」と控えめな抱負を語った。

《くまもと中央カントリークラブ》

